

街を彩り、心を潤す
花壇づくりが元気の源
忠生自然第三クラブ



町田市花壇コンクール問い合わせ先 町田市公園緑地課公園管理係 042-724-4399



コミュニティセンターの習字教室で書道の指導も行っている河村和子さん

町田市忠生の「かしのみ公園」。住宅街にある小さな公園は、すぐ近くの保育園の子どもたちもよく訪れ、晴れた日には元気な声が聞こえてくる。季節ごとに美しい花をつける花壇は手入れが行き届き、綺麗に剪定された2本のベニカナメの紅色が彩を添えていた。

◆ ことを目的に、町田市営の下小山田苗圃が苗を提供している。昨秋はサルビアやマリイゴールド、センニチコウ、アンゲロニアなど約11種、計29万株が配布された。出来映えの美しさだけではなく、デザインや成育状態、地域への貢献度などが問われ、地域のコミュニティ作りという側面からも参加する団体が増えている。

花壇をつくるのは、忠生自然自治会の会員を中心に構成される忠生自然第三クラブ（町田市老連加盟）の皆さんだ。主な活動メンバーはガーデニングが趣味という河村和子さんを中心とした約10名。最高齢は94歳の男性だ。

花壇のデザインは河村さんが担当し、パソコンが得意な奥田真一さんが設計図を作る。苗植えや手入れは全員で行い、朝晩の水やりは担当を決めている。虫が発生してしまったり、肥料が足りなかったり、思いがけず枯れてしまうこともある。しかし、必ず成長記録を取り、二度と同じ失敗を繰り返さない工夫も怠らない。

このコンクールは「花の香り」を目的として昭和48年に始まったもので、春と秋、年に2回開催されている。2019年の参加は321団体。町内会・自治会だけでなく学校や幼稚園、老人ホームなど花壇の場所や大きさもそれぞれ異なる様々な団体が参加している。苗の育成から取り組んでもらう

「大変なのは夏の水やりですね。朝と晩の2回、男性陣が頑張ってくれています。あと、冬の霜、寒さ対策ももちろんやります。失敗してもうまく咲かなかったこともあるけれど、皆で一緒に作り上げていくことが楽しいの」

そう語る河村さんは、公園の落ち葉で腐葉土を作ったり、石灰や木のチップ、糠を使って独自に考えた肥料を使うなど、土壌作りも本格的だ。

「コンクールの結果発表が近づくと、皆で『今日かな、今日かな』ってそわそわしてくるの。『最優秀賞』と書かれたプレートが立てられるのを見る瞬間が一番の楽しみ」そう微笑むのは木村千鶴子さん。小さい子連れのお母さんが花壇を背景に写真を撮ったり、子どもに花の名前を教えているのを目にするとも嬉しくなるという。デザインサービスに向かうお牛寄りから「いつも綺麗にお花が咲いていて癒されている」とお礼を言われたこともある。



左)花壇は咲いた時の色や高さを考えてデザインされる。コンクールにはこれまで49回参加している 中)最優秀賞を受賞した2019年の春。花壇の前で記念撮影をする忠生自然第三クラブの皆さん 右)分かりやすく色分けされた設計図。寸法も角度も正確に記載されている。右ページは左から奥田真一さん、木村千鶴子さん、小澤和夫さん、河村和子さん

she said,
咲いても枯れても、
皆で一緒にやり遂げることが
本当に楽しくて